

REPORT6

オフィシャル会員限定イベント 『DerMond Fest vol.13』

DerMond Kommuni Vol.18 Part2

〈高輪プリンスホテル大ホール AMBIENTE〉

2023年10月28日(土) ピアノ・ゲーム進行:濱野基行

コロナ禍以前に使用していた懐かしい会場に帰ってきました! 豪華なシャンデリアが煌めき、木の温もりも感じられる素敵な空間です。第13回のテーマは"ノスタルジー"。テーマに沿った楽曲リクエストをDerMondistのみなさまからいただき、秋を感じる名曲揃いのしっとりとしたFestになりました。



♪SET LIST

- M1 アヴェ・マリア(マスカーニ)
- M2 落葉松
- M3 秋桜
- M4 少年時代
- M5 インテルメッツォop.118-2 (ブラームス)
- ※濱野氏ピアノソロ
- M6 見上げてごらん夜の星を
- M7 時には昔の話を
- M8 心の瞳



後半はカジュアルな装いにチェンジしてリラックスタイムへ。今回はピアニスト濱野さんにまつわるクイズゲームを開催しました。その名も『僕は何者? どうするRioさん!』。まず濱野さんからRioさんにクイズを出題。正解のパネルを先にお客様に見せ、Rioさんがお客様に聞いたヒントを元に回答するという形式です。罰ゲームは前回に引き続き、Rioさんによる

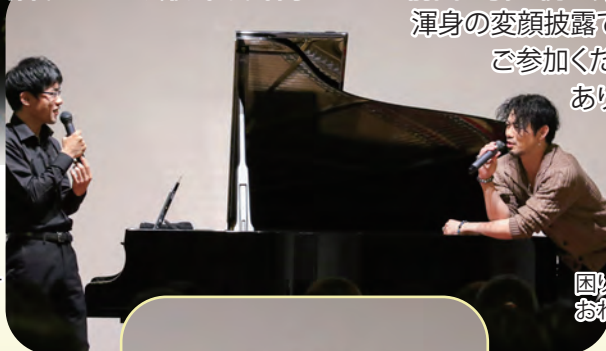
渾身の変顔披露でした。快くゲームにご参加くださったみなさま、ありがとうございました!

クイズ 昼 ver.

- Q1.これから行ってみたい国は? A.イタリア
- Q2. Festが終わって一番食べたいものは? A. 肉!
- Q3. 音楽家でなければどんな職業になりたかった? A. プログラマー

クイズ 夜 ver.

- Q1. 一番好きな映画は? A. ラストサムライ
- Q2. 大好きな作曲家は? A. ラフマニノフ



困り果てて濱野さんにヒントをお願いするRioさん。



Rioさんの悩ましい姿をお裾分け。昼はQ2で何の肉なのかを考え始めてしまったためどツボにハマリ、夜は悩み過ぎてタイムオーバーとなりQ3に辿り着くことすらできず(笑)。クイズにも本気で臨むRioさんでした。

REPORT7

『チャペルプリエール 定期演奏会 No.248 -上原理生バリトンリサイタル Holy & Musical World in Chapel-』

〈ホテル日航福岡 チャペルプリエール〉2023年10月9日(月)

オルガン:池田泉

2022年4月ぶりに再びチャペルでのリサイタルに挑戦。
13世紀のゴシック様式を再現した荘厳なチャペルに立ち、
まるで天にも届きそうな歌声をたっぷりと響かせました。

アンコールの『昂』は、谷村新司さんが宇宙人と交信して
受け取ったメッセージを元に作ったという逸話があります。
昂は古代中国において財の星とされており、谷村さんは
歌詞「さらば 昂」を「物質文明に別れを告げて
精神的なものを追求していこう」というメッセージ
だと受け取ったそうです。

『『生きる』を通じて、僕は生きることについて
求めすぎているんじゃないかなと気付かされました。
“生きることはただそれだけで美しい”。
その上でどう生きるのが大事』と語った
Rioさん。本当の幸せや豊かさの答えがこの
曲にあるんじゃないだろうか、そんな想いを
込めてお届けしました。

♪SET LIST

- ヘンデルの劇音楽ーバッハのオルガン音楽を添えてー
 - ・バッハ: 目覚めよと呼ぶ声あり
 - ・ヘンデル: 『木陰にて』オペラ『セルセ』
 - ・『私を泣かせてください』オペラ『リナルド Rinald』
 - ・ヘンデル: メサイアより『トランペットが鳴り響き』
 - ・バッハ: トッカータとフーガ ニ短調 6'
- シューベルトに始まりレーガーに終わるードイツ・ロマン派の魅力ー
 - ・シューベルト: セレナーデ
 - ・シューベルト: アヴェ・マリア
 - ・レーガー: オルガン・コラール集
- ミュージカル・ナンバーーパイプオルガンと共にー
 - ・レミゼラブルより: Stars
 - ・キャッツより: Memory
 - ・回転木馬より: You'll never walk alone
 - ・オペラ座の怪人より: 序曲とThe Music of the Night
- アンコール
・昂



TOPICS1

ラジオ出演

『OTTAVA Fresca』

〈インターネットラジオ クラシック専門チャンネル〉2023年6月15日(木)

演劇情報専門コーナー『ステージぴあ SPOT-LIGHT』

〈FM COCOLO〉2023年9月22日(金)



『OTTAVA Fresca』の長井進之介さん。
八ヶ岳高原音楽堂やバリトンリサイタルに向けての
想いを語りました。

REPORT8

『ドリーム・キャラバン 2023』

〈東京オペラシティコンサートホール〉2023年11月18日(土)

管弦楽:千葉交響楽団 ビッグバンド:宮間利之ニューハート 指揮:河合尚市

壮大なオーケストラの音楽に乗せ、豪華キャスト陣と共にミュージカル&映画音楽をお届け。Rioさんは学生時代にこのステージでソリストの背中を見ながらコーラスをしていたことをMCで明かし、当時の夢が叶ったと笑顔で語りました。

♪Rioさん歌唱ナンバー

第1部

- The Music of the Night(『オペラ座の怪人』より)
- This Is the Moment(『ジキル&ハイド』より)

第2部

- Stars(『レ・ミゼラブル』より)
- 愛を感じて(『ライオン・キング』より) with 濱田めぐみ
- 民衆の歌(『レ・ミゼラブル』より) オールキャスト



(前列左から)

濱田めぐみさん、寺井尚子さん、新妻聖子さん

(後列左から)

Rioさん、目野真一郎さん、宮間ローズさん

日本のナラ役
オリジナルキャスト
の濱田めぐみさんと
「愛を感じて」を
デュエット
できるなんて!



いつか寺井さんの
ヴァイオリン演奏で
歌うことができれば
素敵ですね。



昨年『ららら♪クラシック
コンサート』で
共演するはずだった
新妻聖子さん。
久しぶりの再会で
話に花が咲きました。



楽屋ではリラックス
モードなRioさん。
ヘアメイクの
千葉良太さんが
いつも素敵に
仕上げてくれます!



日野真一郎さんとは
「平方元基プレミアム・
コンサート2017」
ゲスト出演以来の
共演でした。



このお衣装も
生澤美子さん作!

TOPICS2

ミュージカル『イザボー』ビジュアル撮影

イザボーの夫で“狂気王”の異名を持つシャルル六世。某閥の帝王を思わせる風格に圧倒されます。険しい表情が続く撮影でしたが、小道具の薔薇を手渡されるとすかさず口に加えるお茶目な姿もありました。



これまでにない役柄で新しい顔を見せてくれたRioさん。2024年もまた新しいRioさんに出会えそう！ そんな期待が高まるインタビューとなりました。取材後、おいしそうにプリンを頬張るRioさんも合わせてご堪能ください。

『エリザベス・アーデンvs.ヘレナ・ルビンスタイン -WAR PAINT-』で演じたトミーは、女性の尻に敷かれるタイプの役柄で新鮮でした。

今まであまりなかった側面を引き出してもらったという感覚が自分にもありました。振り返ってみてもすごく楽しかった公演だなと思います。(古川)雄大が観に来てくれたのですが「理生くんこんな役もできるの？ すっごい面白かったよ!」と。人から見ても意外性のある役だったんだなと改めて感じました。トミーのような役もまたできたらいいなと思いますね。



毎年恒例のバリトンリサイタルではどんなことを感じましたか？

今回は自分自身の変化を強く感じました。オペラアリアをテノールで歌ったとき、音は高かったけれどもパチンと決まって気持ちよかったです。「こんなに軽やかに歌えるんだなあ」という感覚が新しい発見でした。2009年からほぼ毎年続けてきたバリトンリサイタルだからこそ、音楽の成長を感じることができるんでしょうね。



『生きる』の小説家役はストーリーテラーとしての役回りもありましたが、挑戦されてみていかがでしたか？

稽古場でやっているときは難しかったですね。演出の宮本亜門さんが「小説家がこの舞台を作った感じで。『ここでこうなってさ、こうなんだよ』とお客さんに紹介して」と言うんです。頭では理解できるんですけど、稽古場ではなんとなく掴みきれなくて。物語を全てわかった上で話さなきゃいけないところが難しいなと。でもお客様が客席に入ったときに初めてわかったんです。「あ、紙芝居のおちゃんみたいな感じなんだな」って。幕が開いてようやく「この感覚か〜!」と理解できたので、それからはずっと楽しかったですね。

『ミス・サイゴン』ぶりに市村正親さんとの共演もありました。

実は『ミス・サイゴン』では市村さん演じるエンジニアとはそんなに絡みがなかったんですよ。なのでガッツリお芝居させてもらうのは今回が初めて。不思議な感覚でしたね。稽古が始まって間もない頃、市村さんに「あの居酒屋のシーン、セリフのタイミングはもっとこうした方がいいですかね？ やりにくくなかったですか？」と聞いたんです。そうしたら「俺が10年以上かけてお前を仕込んできたから大丈夫だよ」って。思わず(市村さんを)ギュって抱きしめちゃいました(笑)。初めてご一緒したときから、限られた時間の中でたくさんのものを教えてくれたんだなあって。

素敵な師弟関係ですね。市村さんはコピスみよしのコンサート(2023年2月)のパンフレットでメッセージも寄せてくださっていました。

市村さんからの「演技とは蓮の上の水玉のようなものだ!」という言葉の答え合わせができました。水玉は何が起きても自在に蓮の葉の上で動くんです。つまり役として舞台上に存在し、何が起きてもその人物として柔軟に対応することが大事なのだと。そんなふうに市村さんと芝居の話ができたのも嬉しかったですね。

第13回となるFest!はしっとり系の昭和歌謡祭りでしたが、個人的に思い入れのある曲は？

「♪時には昔の話を」ですね。自分の学生時代を思い出します。我々は夢追い人ですから、どんな世界でも誰かが夢を追っている



んだらうなあって。そういうところも共感できますし、歳を重ねたからこそ余計に響くところがあるのかもしれない。好きな歌です。

高輪プリンスホテルという懐しの会場はどうでしたか？

あの会場では今のように軽やかに声が出るようになってから初めて歌ったので、以前とは違う音の響きを感じましたし、歌っていて気持ち

良かったです。扉を開けたらそこは別世界という空間もいいですよ。ドイツから木材を取り寄せて造られた建物なんですよ。いつかあそこでクラシックの曲も歌ってみたいと思います。

2024年は既に2本のミュージカル出演も予定されています。どちらも新しいRioさんに出会えそうで楽しみです。

年明けはまず『イザボー』ですね。ファンの方に教えてもらったのですが、脚本・演出の末満健一さんがインタビュー記事で『『こんな上原さん見たことない』と思っていただけるように』と話していたらしいんです(笑)。どうなるんだろう……頑張ります(笑)。末満さんが時代背景を踏まえて綿密に台本を書き上げていらっしゃるの、シャルル6世について勉強して臨みたいと思っています。

『スウィーニー・トッド』では、市村さんと大竹(しのぶ)さんが一緒に舞台をやったらどうなっちゃうんだろうなあって(笑)。自分が演じるターピンは悪の親玉で、結構悪いやつなんです。判事をやるくらいですからきっと育ちはいいんでしょう。何でも与えられてきたから我慢を知らずに強欲な人間になったのかなあとか、どういう人間なんだろうと考えています。初めて参加する作品ですが、気心知れた共演者の方がいるので心強いです。

こんな感じで2024年は4月まで駆け抜けます。DerMondistのみんなもぜひついてきてください!

